

養育里親

～もうひとつの家族～

23

坂口 伊都

はじめに

里子も中学 1 年生になり、出会った頃よりだいぶ背が伸びました。毎日一緒にいるので、声変わりをしたのかどうかはよくわかりませんが、小学生までとは違う何かを感じ始めています。

以前よりも自分の部屋にこもる率が増えたなと感じますし、話しかけてもなかなか答えなかったりすると無視されたようで感じイラッとさせられます。このまま面と向かって言い続けるとうまくないだろうなあと感じるの、後は帰ってきた夫に任せて、私はあえて距離を置くことも増してきたように思います。本当は、家族としての関係性を深めたいと願っているのですが、まるで真逆。

思春期というものがあるのはわかっていますが、ピンときません。反抗期と言われても、細部にわたる所まで反抗的な返事がベースとして

返ってくるし、親離れと言われもくっついてもらった感覚がないので、もうすでに離れていますと叫びたくなります。

思春期の男の子は気難しくなったり、母親と話すのを避けるようになっていたりするものだという感覚は息子を育てたので私にもあります。ただ、単純に息子の時と同じに考えていいのだろうかとも迷います。身体が二次成長期に入り、心とのバランスが崩れやすくなるのは一緒なのでしょう。そこの部分では、感情のコントロールが悪くなったり、イライラしやすくなったりするのではないかと思います。息子の場合、世の中の不条理さに反抗を試みていましたが、この子にそこまでの思考があるのかどうかわかりません。思春期よりも実は、もっと手前にいて日々の生活を送ることが手一杯で余裕がないように見え、社会の理に辿り着けていない印象があります。

今回は里子の思春期が入ってきたのかなとい

うエピソードを紹介しながら、いろいろ考えていきたいと思います。今回も、どうぞ最後までおつきあい下さい。

ある事件

夏休みが終わり、学校が始まって二日目のことでした。学校の鞆の中に10枚以上入るCDケースが入っていました。学校に持って行っているのは1日1枚だけという約束だったので、別の場所に移しました。私が伝えると、反抗的になる可能性が高いので、夫に電話をしましたが、早く帰れそうにないということでした。仕方がないので、里子から聞かれるまでは黙っておくことにしました。

夜になって、里子が「CDは？」と聞いてきたので、「学校の鞆に入っていたので別の所にしました」と伝えると、「机の上に置いていたのが、鞆に落ちただけ」と言います。そんなことはないよなと思いつつ、「父から返してもらってください」と伝えると「ケチ、返して」と言い、壊れたラジオ作戦で「父から返してもらって」と言い続けると「CDを取ってやる」と言うので、「それはしてはいけない約束でしょ」というやり取りで返す言葉がなくなり行き詰まったら、殴りかかってきました。殴りかかると言っても、パフォーマンス的な要素もある感じだったので、腕を抑えて力を相殺することができました。殴りかかってきた時に中学生を抑えられるかと不安に感じましたが、何とか耐えました。腕を抑えている間、「暴力はダメ、許しません」と言い続け、離れると「返して」と言い、「それはできない」と言うともた殴りかかってきます。それを5回ほど繰り返して、だんだんと里子の表情に負けるものかという感じが出てきて、こちらも疲れがたまってきます。腕を掴み損ねて里子の手が顔にあたったのをきっかけに限界を感じ、

私が「もう、やってられない。児童相談所の夜間連絡に電話する」と宣言したら、急に素面に戻り「ごめんさん、ごめんなさい、電話しないで」と豹変しました。こちらの気持ちを落ち着けたいので、「少し離れて」と言っても聞けずに私を追いかけまわります。母にクールダウンさせる時間をちょうだい!!と切に願うのですが、里子は「お願い、言わないで」を私が「うん」と言うまで懇願し続ける気満々です。でも、言わないという行為は、モノを隠す行為と同じ構図だと感じたので、「してしまったことは消えないからね」と言い、今夜は連絡をせずに明日すると伝えました。そこに落ち着くまでには、「あなたを追い出そうと思っているわけじゃない」という言葉が必要でした。

ここまでの事が起きた背景には理由があります。里子の誕生日プレゼントを話し合っ、CD



コンポにしました。iPodのような小型で便利な機能の物にするとトラブルが増えそうなので、家の中で置きっぱなしで使うタイプにして、CDを増やす時のルールを決めて、モノを大事にすることや管理することを覚えてもらおうとしていました。里子は音がいいやつがいい、スピーカーが2つに分かれているやつがいいと言い、ちょっと高かったのですが、希望の品を購入しました。そのCDコンポで聞くCDは里子の大切なモノだったので。

なので、多分、大切にしていたCDが目の前か

らなくなって、いろいろ言ってみても返してもらえずにパニック状態になったのでしょうか。それでも、している事と悪い事があります。モノを大切にすることを教えようとしたら、その先にこのようなトラブルが待っているのかと気が遠くなって愕然としました。この先も良かれと思った事の先に大きなトラブルが常についてくるものなのか？そして、その時に誰も助けられないという現実には怖さを感じました。誰か家族が家にいたら仲裁に入ってくれるでしょうが、いないと一人で対応しなければなりません。これも里親ならではの事情であり、リスクだと感じました。

この事件の2日後に身体中が筋肉痛になり、歳を痛感しました。この子のために良かれと思ったことから暴力になっていくのは辛い事ですし、この状況が繰り返されたら私の身体が持ちません。大きな出来事であることを里子に体感してもらふ必要だろうと、児童相談所の担当ワーカーに連絡をし、里子の話しを聞いてもらいました。里子に伝わるためには何をしたらいいのか、これから先共にやっていけるのか、いろいろな考えが私の中で混乱し、同時にひどく疲れを感じました。

里親家庭もチームプレー

この事件で、私は想像以上のダメージを受けたようでした。暴力を止めるという行為は日常にはありません。非日常の出来事に遭遇したこと、そしてそれを誰も止めに来てくれなかった経験が私にダメージを与えたようです。しかし、他の家族は出かけていたので助けに來られないのは当然です。

この私の気持ちを宥めてもらいたかった。それを子どもに押しつけるわけにはいけないので、その役を夫に委ねました。夫の仕事が忙しいの

はわかります。騒動後に電話をしても出なかったなので、LINEでSOSを発信しました。既読になりません。仕方がないよねと自身を宥めます。暫く時間が経って既読になりましたが、何の動きもありません。そして、帰宅する前に夫から電話が入りました。私はその行動を受け入れられません。たとえ帰ってこられなくても、「大丈夫か？」の発信が欲しかったからです。私の中で、夫は仕事を優先させたという気持ちが渦巻きます。夫が帰宅し、「何があったの」と聞いてきますが、私は話す気持ちになれません。私はイラつきながら「大丈夫とかないの？」と訴えると、「それは電話の時に聞いたよな」と逆ギレする夫。私の中で「踏んだり蹴ったり」という言葉が踊っています。ちゃぶ台をひっくり返したくなるような気持ちとは、まさに今なのでしょう。

こういうことが、暴力に出会うと付随して起こるのだと感じました。その場に居合わせたものといない者の臨場感の違い。次は、わかってもらえなさとの闘いかと思いました。

翌日、私は家に帰る気持ちになれず、プチ家出をしました。最寄り駅を通り過ぎて、繁華街でブラブラと時間をつぶしますが、身体中が重く、本当は早く寝たい。そろそろ里子が寝る時間帯に帰り、ささっと寝室に逃げ込む私。この行動は、「私をそっとしておいて」というメッセージでした。しかし、夫が里子を連れて寝室に入り、里子に謝らせようとやって来ました。儀式的に謝られてもそれを受け入れる心の準備はできてなかったのも、夫と里子には「今は話をする気持ちになれないので2人とも部屋から出て行って」と伝え、謝罪を拒否しました。暴力を振るった側が自分の都合で相手に謝罪しようとする事自体が実は非常に暴力的なのだとなりました。里子は、わけがわからない様子で出ていき、夫は「じゃあ、どうすればいいのだ」とまた逆ギレ気味でした。

暫くは、2人との距離を取りながら生活をするしかないかなと思い、気の重さを感じていました。翌日、学校のファイルがなかったのに娘に頼んで里子の部屋に取りに行ってもらいましたが、2冊のうちの1冊しかありません。仕方がないので、里子の部屋まで出向き、里子にどこにあるか尋ねました。すると、里子が「ファイルを出すから仲直りしよう」と言い出しました。ほろっときました。里子の素直に仲直りしたいという気持ちが真っ直ぐ伝わってきたので、すぐに「いいよ」と承諾し、「あの時、あなたは一所懸命に謝っていたから、改めて謝らなくても大丈夫だったの。本当はパパの方に怒っていたのよ」と伝えましたが、里子には、訳が分からないでしょう。ただ、殴りかかったことで、私がいつもと違うこと、謝らせてもらえなかったことなど、いろいろな不思議を体験し、里子なりに気にし、修復をしたいと思ってくれていたようでした。

その後も夫に対しての怒りは消えません。「親としてはあなたと話しますが、夫婦として話す気はありません」と宣戦布告。恨みは深いです(笑) そんな数日を過ごすとも夫も値を上げ、LINEで謝罪してきました。LINEでのやりとりをしましたが、スッキリとした気分になれたわけではありません。感じたのは、家族がチームになれない時のしんどさです。もちろん、夫には夫の事情や言い分や感じ方があるのはわかりますが、同じ方向を見ずに生活を共にしていく感覚は、辛いものです。

夫婦がチームになれるかなれないかで、日々のストレスも変わり、子どもに与える影響も違ってきます。子どもは、親の様子を見ていないようでよく見えています。子どもにもストレスをかけることになっていきます。今回の私の訴えを引き受けてくれたのは、職場の人々でした。「あらま、それはしんどいなあ」と歩調を合わせながら、第三者として見えてくるものを教え

てくれました。良かった、働いていて。孤独にならないということは、とてつもなく大切なことなのですね。

家族がチームになるために父母がこれからどう折り合いをつけていくのかも調整が必要になってきます。これは、なかなかの難題かも知れません。これも里親ならではの悩みようです。

終わりに

里親をするようになって、夫婦は全く違うタイプなのだと思います。夫の苦しい一面を改めて知りもしました。この夫婦サブシステムの折り合いをどうつけていくかが、今後の生活を左右することになるのでしょうか。

実は里子の行動問題よりも、夫婦や家族がチームになれないことの方がダメージがあるのではないかと感じています。職場でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

我が家の場合、モノに関するトラブルが続いているので、モノの刺激を減らそうとしています。しかし夫はもともと、モノを多く所有したい傾向があり、里子にモノに与えることに躊躇しません。それに対し私は、里子が隠したモノを見つけていくという構図になっていました。つまり、父母の行動が真逆になっています。夫に悪気がなく、無意識にしているようです。このことに関して、夫が変えていくことは難しいのだと思います。では、私が気にし過ぎるのでしょうか。モノを取ってきて隠す事を続けることを続けることが良い事ではないと思うので、他の方法を考えていく方がいいのでしょうか。職場だと、この辺りの事はスッキリと環境を整えやすいですが、家庭だとかなり難しいのだとわかりました。

モノに関しては弱さがある我が家ですが、夫はどちらかと言うと温和で、子どもと一緒に釣

りやキャンプ等、ワクワクするような遊びを子どもと共にすることが上手です。私は、怒ると怖いです。お母ちゃんに見つかったらまた怒られる、どうしよう、隠そうとなるのでしょうか。以前から子どもには安全で安心できる特定の大人が必要ということは頭ではわかっていましたが、今まで私は里子の行動問題に気を取られていたように思います。

CRCのニュースレターに工藤晋平先生がアタッチメントの連載コラムを書いてくれていて、その中の文章が目にとまりました。

危険や危険のサインに直面すると、子どもは（大人も）くっついて安心したいという「ニード」が高まります。「危険」は大きく3つに分類できます。(1) 疲れや病気などでおの本人の状態、(2) 暗がりや見知らぬ人がいるなどの環境の状態、(3) くっつく相手（アタッチメント対象）が物理的・心理的に近づけない状態。この時、人は(1) 自分から近づこうとする、あるいは(2) 相手を近づけようとする、アタッチメント行動を取ります。これは、危険とニードの高まりを知らせる「シグナル」であるといえます。もしうまく対応してもらえないことが続くと、行動問題が発達するかもしれません。

(1) と (2) の状況になっても里子はアタッチメント行動を取っているように見えません。この子のアタッチメント行動に寄り添えていないと感じます。そうすると、つまり、この子には安心できる大人が物理的、心理的にいない状態が続いているのだらうと感じました。この子にとって安全で安心できる両手が未だにないのでしょう。私も夫もこの子を支える安全で安心な両手になれずに里子の行動問題に振り回されている日々なのでしょう。

里子はモノを隠れて取り、それを隠しますが、隠した場所をすぐに忘れてしまい、取ったモノ

に対する執着はないように見えます。この行為をアタッチメント的に考えると、モノを自由に所有することへ安心感を抱いていると捉えることができます。では、どうしていったらいいのでしょうか。親も子も試行錯誤しながら、険しい山を一緒に登っているような感覚がします。これから、里子との暮らし方を見つけられそうな気がしますが、途方に暮れる日々はまだまだ続きそうです。

